

第5学年 社会科 学習構想案

日 時 令和7年11月21日（金）第5校時
 場 所 5年1組教室
 指導者 教諭 豊永 恵美

1 単元構想

単元名	国土の環境を守る「自然災害から人々を守る」		
単元の目標	(1) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。 (2) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することができる。 (3) 主体的に学習問題を追求し、解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、地図帳や各種の資料で必要なことを調べ、適切にまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることを理解している。 ②自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	①地形や気候など自然条件に着目して自然災害と関連付け、問いを見出し、わが国で発生する自然災害の特色について考え、適切に表現している。 ②国や県や地域で行われている災害対策と自然災害を比較・関連させながら捉え、その役割について考え、各災害対策と自分たちの関わりについて考えたりして、表現している。	①我が国で発生した自然災害の状況や防災対策などについて、学習問題などの解決に向けて意欲的に追及しようとしている。 ②学習したことをもとに、自然災害から自分の命を守るための備えについて考えようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
日本の自然災害と地形や気候との関連を知り、予測不能な自然災害から自分たちの命や暮らしを守るための工夫や備えを考えようとする児童			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
日本の自然災害は、地形や気候とどのように関係しているのだろうか。		災害の種類や発生の位置や時期、原因と結果を調べることで、地形と気候との関わりを捉え、防災対策を各立場で考えることで公助・自助・共助の必要性を考えること。	
指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時1／6）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	1	○我が国の自然災害が、「地形」や「気候」と関わりがあることを資料から読み取り、学習課題を見出す。【本時】 日本 <small>の</small> 自然災害は、地形や気候とどのように関係しているのだろうか。	★【思一①】（方法：発言・ノート・振り返りシート） ○地形や気候などの自然条件に着目して自然災害と関連付け、問いを見出ししている。
	2	○学習問題の解決に向けての予想や計画を立てる。 ・自然災害を分担し、自分なりの調べ方でまとめる。 ・個別最適な学び方を考える。	★【態一①】（方法：発言・ノート・振り返りシート） ○自然災害と自然条件との関連や自然災害を防ぐ取組について予想や学習計画を立てている。 ○役割を分担して、自分に合った調べ方を考え、選択している。
課題追究・課題解決	3	○国内で発生している様々な自然災害と発生地域について気候や地形などに着目して調べる活動を通して、自然災害が「いつ」「どこで」発生し、「どのような影響」を与えているのかをまとめる。 ○調べたことを発表する。	★【知一①】（方法：発言・ノート・振り返りシート） ○各地域で発生している自然災害やその原因などについて資料から読み取ったり、まとめたりして、自然災害と地形や気候との関係を理解している。
	4	○国や県で行われている災害対策について自然災害と関連させながら調べ、その役割について考える。 ・砂防ダムや堤防の建設などのハード面 ・ハザードマップや防災教育などのソフト面 自然災害の被害を防ぐためにどのような取組が行われているのだろうか。	★【知一②】（方法：発言・ノート・振り返りシート） ○国や県では、自然災害から国民の生活を守るために、様々な対策や事業を進めていることを理解している。 ○公助の面と自助・共助の必要に気付く。

	5	○球磨村の防災対策の現状について理解し、自分たちとの関わりについて考える。	★【思-②】（方法：発言・振り返りシート） ○球磨村の防災対策と自分たちの生活との関わりについて考え、適切に表現できている。
新課題	6	○単元を貫く学習問題に対する自分の考えを見つめなおす。 ・防災ブックに今自分ができていることを書く。	★【態-②】（方法：発言・防災ブック） ○学習したことをもとに、自然災害から自分の命を守るための備えについて考えている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
<p>本小単元は、小学校指導要領第5学年の内容(5)にあたる。 「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解することができる。」</p>				
教材・題材の価値				
<p>本教材は、自然災害は日本の地形や気候の特性からいつでも起こってもおかしくないこと、国や県が様々な対策や事業を進めていることに気付かせることができる。また、自分の命やくらしを守るために自分にできることを考えさせることができる。</p>				
本単元における系統				
4年 「自然災害から人々を守る活動」	5年 「国土の環境を守る」		6年 「我が国の政治のはたらき」	
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況				(児童数：7人)
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
自分で課題を見つけて、めあてを考えることはできますか。	0	6	1	0
本やインターネット、見学やインタビュー等で情報を集めることはできますか。	3	4	0	0
集めた情報をまとめて、自分の考えを表現することはできますか。	3	4	0	0
学んだことを現在やこれからの生き方につなげて考えていますか。	2	4	1	0
■本単元の学習に関する意識の状況				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
自然災害は自分にとって身近な問題だと思いますか。	6	1	0	0
令和2年7月豪雨災害のことを知っていますか。	6	1	0	0
家に防災グッズはありますか。	6	1	0	0
家族と「災害が起きたときの行動」について話し合ったりしていますか。	3	4	0	0
■考察				
<p>明るく元気な学級であり、素直に言われたことを行動できる。発言は多いが、思いつきで発言する児童もおり、根拠に基づいて発言ができるように取り組んでいる。また、グラフの読み取りを正確に行う、資料に基づいて必要な情報を読み取るなどの社会科としての技能を少しずつ向上させている途中である。ハザードマップを見てマイタイムラインを作成したり、総合的な学習の時間で令和2年7月豪雨災害の被災地の見学をしたりするなど防災に関する意識は高まっている。</p>				

3 指導に当たっての留意点

本校の校内研究のテーマは、『状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成』である。

【視点1】「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」

手立て1：単元配列表を作成し、各教科横断的な学びになる工夫

- 本単元では日本は地形や気候の特色から自然災害が多いことを学ぶ。その学習を受けて、総合的な学習の時間での目標「防災ブックを作ろう」につなげ、自分たちにできることを具体的に考え、学びを深められるようにする。

手立て2：子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定の工夫

- 本時の課題発見の過程では、「日本の自然災害は多いのだろうか？」という問いに対して予想することで、写真や資料に基づいて、地形や気候と関係があることに気付かせ、更に詳しく知ることが防災につながることを学ばせたい。

手立て3：子供が自らの意思で表現したり、行動したりする場の設定

- 一人学びやみんなで考える、先生にアドバイスをもらうなど学び方を選択し、自分の考えをもつことができるようにする。

4 本時の学習

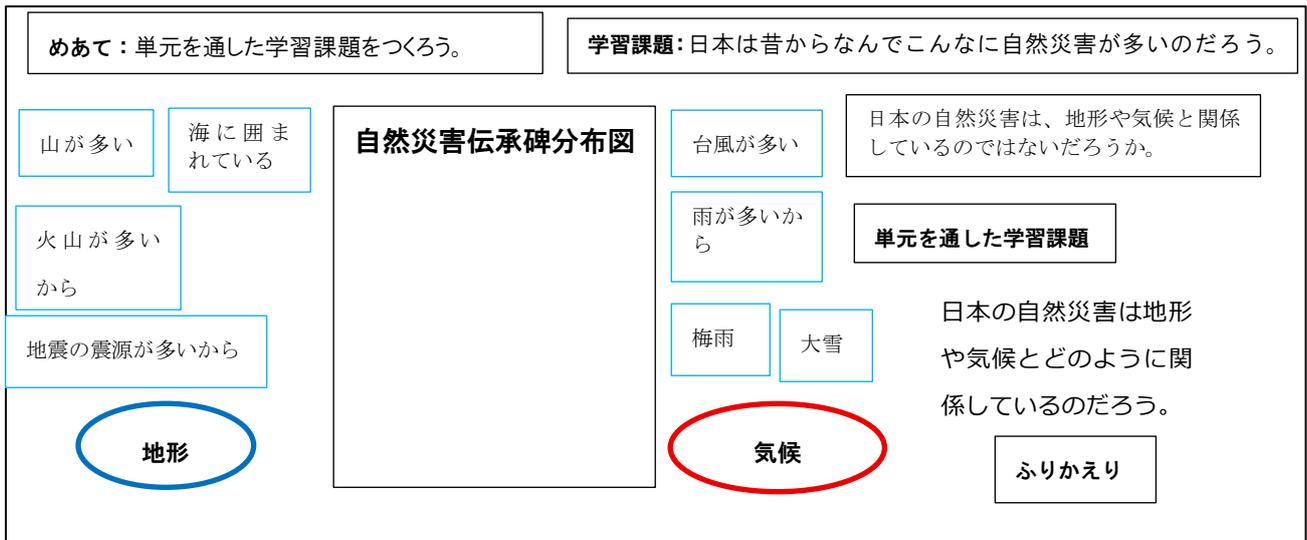
(1) 目標

資料を活用して、日本の自然災害は地形や気候と関わりがあることに気付き、学習課題をつくることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	15分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>めあて: 単元を通した学習課題をつくろう。</p> <p>①地図記号を知る。 ◇郵便局 ◇神社 ◇病院 ◇お墓かな？ ②国土地理院のサイトで「自然災害伝承碑」の分布を見る。 ◇こんなにたくさんあるんだ。</p> <p>学習課題：日本は昔からなんでこんなに自然災害が多いのだろう。</p>	<p>○「自然災害伝承碑」について説明する。</p> <p>○昔の人たちが後世に伝えようとした自然災害の教訓を正しく伝えるために国土地理院が作成したことを伝える。</p> <p>○国土地理院のサイトで地図記号をクリックして、どのような災害があったかを見る。</p>
展開	10分 10分 5分	<p>2 自然災害について地図帳を使って調べる。</p> <p>①資料に直接書き込む、付せんを書く、日本地図を活用するなどして、分かったことをノートに書き込む。 【共通実践事項1】</p> <p>②分かったことを他の人と交流して、自分の考えを深める。 【共通実践事項2】</p> <p>③自分が最も良いと思う意見を発表用の紙に書き、黒板に貼る。</p> <p>④発表して、まとめる。 ◇海に囲まれているから。◇火山が多いから。 ◇台風の進路になっているから ◇山が多いから土砂くずれが多い。 ◇梅雨や台風があるから。</p> <p>【期待される学びの姿】 地図帳を活用して、地理的な特色や気候の特色と関連付けながら、考えることができる。</p> <p>3 単元を通した学習課題をつくる</p> <p>単元を通した学習課題： 日本の自然災害は、地形や気候とどのように関係しているのだろう。</p>	<p>○地図帳を活用して調べる。</p> <p>○調べ方は、一人で考えたり、他の人と相談したりしてもよいようにする。</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ・1つの自然災害について絞って、一緒に地図帳を見ながら、なぜ起きたのかを考えるようにアドバイスする。</p> <p>○似ている意見の近くに貼るようにする。</p> <p>○生徒の意見を「地形」と「気候」に分けてまとめる。</p> <p>【具体的評価基準】 思-① 地形や気候などの自然条件に着目して自然災害と関連付け、問いを見出している。 (方法：発言・ノート・振り返りシート)</p> <p>○今日調べて分かったことをもとに単元を通した学習課題をつくっていく。</p>
終末	5分	<p>4 本時の振り返りと今後の見通しをもつ。 【共通実践事項3】</p> <p>◇なぜ地震がおきるのだろう。 ◇火山でどんな災害が起きるのだろう。</p>	<p>○自然災害と地形や気候との関係を詳しく今後調べていく意欲をもつことができるようにする。</p> <p>○タブレットの振り返りシートに今日の学習で分かったこと、もっと知りたいことを記入するようにする。</p>

【板書計画】



【ICT活用計画】

児童による調べ活動時の活用計画、教師による教材提示の計画

【追究活動（調べ学習）】タブレット

情報収集

日本の自然災害が地形や気候とどのように関わっているのかをいくつかのサイトを提示して調べることができるようにする。

【単元や学習の導入場面】電子黒板

教材提示

国土地理院の自然災害伝承碑のサイトを活用して、日本の自然災害が多いことをイメージすることができるようにする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

【標準学力検査より】過去問題 R7 大問 8 (1)

R5 大問 8 (2)